



TITLE:

雜報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

雜報. 天界 1927, 7(76): 304-304

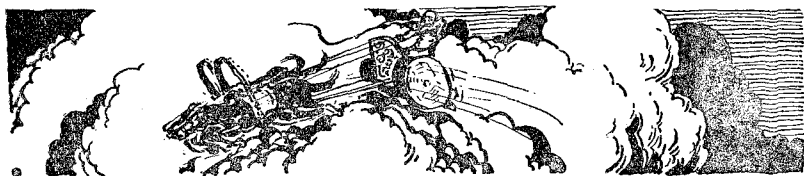
ISSUE DATE:

1927-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161124>

RIGHT:



## 雑 報

### アインシュタイン説の研究観測

昨年頃から米國クリーヴランド市ケース理學校教授ミラー (Dayton C. Miller) が主張してゐる説によれば、宇宙エーテルは地球と多少異なる運動をしてゐるこゝが、同氏のキルソン山上に於ける観測によつて確かめられたといふのであつて若し之が本統ならば、有名なアインシュタイン氏の相對原理が破れることにもなり、近頃、世界の數理學界の話題を賑はしてゐる。しかるに、最近報によれば、ベルジク國ブリュセル大學のピカル (A. Picard), スタール (E. Stahl) 兩博士が此の観測を企て、寫眞器の自記裝置を輕氣球に載せたまゝ一マイル半も高い空に掲げたが、其の結果に據るゝミラー氏の言の如き高度によるエーテルの流動の相違は認められなかつた。又、米國に於いても、バサテナ市の加州工學院のケネディ (Roy J. Kennedy) 博士が僅々13フイト間の光線によつて観測した結果ミラー氏の實驗は光線が長過ぎて (ミラー氏は200フイト)、氣壓等の不規則な影響を受け、其のためにエーテルの流動があるやうに誤解されたのであらうといふ故に若し此のピカル氏やケネディ氏の研究が正しいものならば、相對原理と相抵觸しないわけである。(山本)

### ミリカン光線は銀河から?

米國隨一の物理學者ミリカン (R. A. Millikan) 博士が、1923年以來諸所で行つた試験により、全宇宙の四方八方から、普通の光波の10000000分の一ぐらゐの波長を持つ極短電波が地球へ來てゐるこ

ゝを發見した——此の事は既に本誌第6卷(第67號)第430頁に記した所である。此の事は近來世界中に評判されて、一般に「ミリカン光線」(Millikan Ray) と呼ばれてゐる。

尤も此の種の光線を最初に發見したのは、上記のミリカン氏よりも、ドイツ國のコールヘルスタア (Werner Kolhoerster) 博士であるとも言はれるが、最近此のコールヘルスタア氏は、助手フォン・ザーリス (Gubert von Salis) 氏と共に、スキス國ユンクフラウ峯の氷河上に於いて此の不思議な光線を觀測した。それに據るゝ、光線は宇宙の何れの方面からとも、同様な強さで來るのでは無く、特に銀河の方面からと、又、アンドロメ座やヘルクレス座の方向からとも最も強力であるといふして見るゝ此の光線は銀河や一般の渦巻星雲の方から主として發射せられてゐるものと思はれる。(山本)

### 測地學地球物理學國際同盟

#### 第3回總會

此の總會は

第1回を(1922年5月)イタリヤ國ロマー市で開き、吾が國からは平山信、木村榮兩博士が代表として出席せられ、

第2回を(1924年10月)スペイン國マドリド市で開き、吾が代表として田中館愛橘、松山基範、大谷亮吉、山本一清の諸氏が出席せられたが、前回の決議により

第3回を(1927年9月上旬)、チエク國プラハ市で開くこととなり、我が國よりは代表者として、田中館愛橘、大石和三郎、橋元昌矣諸氏が派遣せられることに決定した由。(山本)